

様式④

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 3 月 1 日

所 属： 獣医 学部 獣医 学科

氏 名： 圓尾 拓也 職位： 准教授

役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

（教育活動について何をやっているのか：役職担当・主要担当科目リスト(必修，選択)（受講者数）(学部向け，大学院向け)（學理データ活用）

教師として何に責任を負っているかを明確にし，自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。 (分量の目安：2～5行(80字～200字)(科目表以外))

※分量(字数)はあくまで目安ですので，超えても構いません。内容を優先して下さい。(以下同じ)

1994年に麻布大学獣医学部を卒業し獣医師になりました。小動物臨床、腫瘍認定医として腫瘍診療、放射線取扱主任者として放射線治療に従事してきました。以上のことから分かる通り、エビデンスに基づく治療を行うとともに、オーナーの希望に添えるよう努めています。主として実習を担当していますので、その点を踏まえて臨床経験を通して「学生の学習成果を高めること」を目的としています。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
獣医放射線学	獣医	必	2	
獣医総合臨床実習	獣医	必	5	
小動物病院実習	獣医	選	6	
小動物臨床実習	獣医	必	5	
総合獣医学	獣医	必	6	

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

1. で説明した教育面での責任を基にしながら自分の教育理念に基づいて自分の教育アプローチについてまとめる。(自分の教育アプローチの説明：なぜやっているのか，自らの信念，価値，目指すもの) (分量の目安：8～12行(320字～480字))

国家試験に受かることを別とすれば、大学は学びたいことを自身で選択して学ぶところであると考えています。その延長として就職があり、小動物臨床を教えています。その他の進路も重要と思っています。どの分野でも実力を発揮してほしいですし、不本意なことがあっても自分の居場所を見つけることができるよう、自身で考える力を養ってほしい。専門家として自立するためには、教えるだけでは足りず、自身で切り開く必要があります。そのためには、教わることも重要ですが、自身で考えることが重要と考えています。まずは質問を繰り返すことで自身の実力を理解し自分で考えることを促していきたい。そのために、1)基礎学力の習得、2)わからないことを認識し自ら調べる習慣をつけ自分の言葉で説明できるようになることを強調したい。

基礎学力をつけることで国家試験受験に向けての心構えができると考えます。国家試験はある程度の実力がないと取り掛かれませんが、また、わからないことを言語化することで調べることが可能となります。これらのことを通じて、社会に貢献する獣医師を育てたい。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

教育の目的と目標（これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法）（分量の目安：15～24行（600字～960字））

担当する授業や実習は放射線治療を中心としたものとなっています。目的をはっきりさせ、症例提示をすることで学習効果は高まると考えています。目的意識を持って学習することで習得できることも多いと考え、以下のことを行なっています。

1) 基礎学力の習得

a. 写真の多いスライドを用いた授業

臨床例を多く提示することで自身が獣医師となった時のことを考えて聞くことができると考えています。また、スライドの文字数を少なくすることで見やすく、一目で理解しやすいようにしています。

b. 事前の小テスト

復習の問題を取り入れることで、授業にあたっての基礎知識を復習する。また、授業内容の問題を入れることで、授業の要点を理解することができると考えています。授業の終わりに解説を行うことで重要なところを再度することで知識の習得に役立つと考えています。

また、臨床実習においては以下のように実技を行うよう取り組んでいます。

c. CTの読影では特定の写真のみの提示ではなく動画による複数の画像を用いた症例提示

CTの特徴の一つに複数の画像の確認による病変の確定があります。本来ですと全ての画像を提示したいのですが、ダウンロード容量の関係で提示できないので複数の条件の動画に変換し症例提示しています。

d. 病院実習においては、オーナーの許可が得られたものについては、規則どおり監督下で診療補助してもらっています。座学、実習で習ったことを実際の症例でするには心配が必要です。その辺りを含めて習得してもらえればと考えています。

2) わからないことを認識し自ら調べる習慣をつけ自分の言葉で説明できる

a. 実習でもなるだけ質問をするようにし、自身で考えるように仕向けています。答えられないことは昼食の休みで調べ、実習最後に答えてもらうようにしています。

b. 卒業研究では、論文を読むだけでなく、論文の構造、雑誌の評価を含めて質問することで信頼に値する情報源かどうか、についても教育するようにしています。

以上のことを踏まえ、基礎学力の定着と、調べて自分の意見が言えるように心がけています。

アクティブラーニングについての取組

事前に資料を提示している。とくに小テスト問題を提示し、事前学習を促している。

ICTの教育への活用

実習資料を掲示し、自宅学習を促している。また、オンラインゼミ、問題提示、回収、解答提示も行なっている。次年度からはスライドに対して音声解説付き動画の事前配布を予定しています。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24行（600字～960字））
現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

（①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください）

前述しましたが、事前に小テスト問題を出すことで教育内容を明らかにするとともに一部ではありますが回答を確認することで理解の程度を知るよう試みています。また、実習中では動画を活用し、実習中に異なるパターンを説明するようにしています。

①教育（授業，実習）の創意工夫（B）

②学生の理解度の把握（B）

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（B）

⑤双方向授業への工夫（B）

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をされましたか。（V 学科， M 学科の教員の方のみ記載してください。）

関連する過去問の提示と解説。

5.学生授業評価（分量の目安：4～7行（160字～280字））

全て分担で授業評価が難しいため割愛しました。

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

② ①の結果はどうでしたか。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

6.学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

(参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。)

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況) (分量の目安: 1~2 行 (40 字~80 字))

参加できるときは FD 研究会に参加するようにしています。また、他大学の教員と情報交換を行い、参考にしています。

8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。(分量の目安: 3~6 行 (120 字~240 字))

短期的には、機器が医療と同じレベルに追いついたため、自宅での学習が容易になるような課題提案を心がけたい。また実習中の簡単な注意書きについては、メモをはったり QR コードを用いたりして記憶喚起に努めたい。長期的には、学生が実施することについて観察し、どうしてできないかを明らかにしたい。それにより教え方を改善する方向を模索したい。

9. 添付資料 (根拠資料) (※) 資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

- FD 研修事後課題（ピアレビューによるブラッシュアップ）の実 有・無 該当を○で囲む
- 下線部以外は今回新規追加した事項を示す。

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの

シラバス，小テスト，宿題，レポート課題，試験問題，教材（配布資料，パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

1. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績

3. 大学／学会等から

教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡